

ODASAKU

肩前後に大阪・ミナミの周辺で取材がある時は、時折、自由軒で「名物カレー」(650円)を食べる。大阪をごよなく愛した作家、織田作之助(1913〜47年)が出世作「夫婦善哉」の中で、「玉子入りのライスカレー」と描写した、ご飯とカレーを混ぜ、生卵を落とした逸品だ。

店舗は67年に建て替えられたが、レトロな感覚にあふれ、「夢」と書かれた桂三枝さんの色紙なども飾られている。遠くから来たとみられる織田作ファンが店内をきよ



ろきよる見回
しながら食事

をしているのを見るのも楽しい。

映画監督で脚本家の金秀吉さん(44)が、織田作34年の人生ロマンを描く劇映画「ODASAKU(仮称)」の制作準備を進めている。大阪生まれの在日コリアン3世は「ほんなりとして、それでいて、いちびりな映画を撮りたい」と語る。セットは作らず、今あるままの町家などを借りて撮影し、「映画マップ」を作る構想もあり、観光振興にも一役買う。

「ODASAKU」の中には「ODASAKU」がある。完成が待ち遠しい。

【新土居仁昌】